

21世紀型企業に求められる労務管理(人財の育成)

● 目標を持つことの大切さとレベル設定

雨上がりの道で、子供たちが飛び跳ねています。水たまりを見つけると、走って行き、「飛び越えられるかなあ?!」「えいっ!」

水たまりを見ると、飛び越えたいくなる。高いものがあると登ってみたいくなる。人は、目の前に目標があると、チャレンジしたくなるものです。

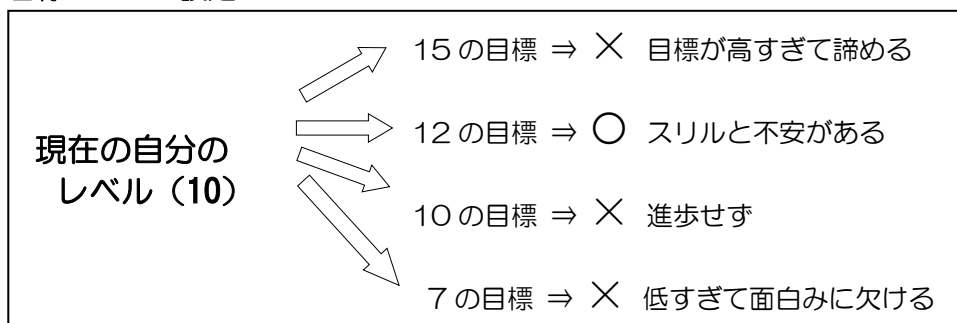
「どうして山に登るのですか。」「そこに山があるからです」
名セリフですね。



では、子供はどんな水たまりを飛び越えようとするのでしょうか？ 小さすぎる水たまりではつまらない。大きすぎる水たまりでは、飛び越えられるわけがない。できるかな？ できないかな？ 頑張ればできるかな？ そう思える水たまりを選ぶと思います。

その子にとって、ちょうど良い目標が、いちばんやる気のでるものです。失敗するかもしれないけれど、成功したら、とてもうれしい目標。そんなチャレンジ精神が湧いてくるような目標（「スリルと不安」がある目標）です。

目標のレベル設定



大人の社会（仕事）でも同じことが言えると思います。自分の力や困難度を考え、レベルにあった目標を立てる。そうすれば、成果も上がるし、能力の向上も早いと思います。

人財の育成 VOL. 23 仕事を持ち越さない習慣を！

仕事の期限にいつも間に合わない社員と期限までにきちんと仕上げる社員。いったいその差はどこからくるのでしょうか？ それは、「意識の差」ではないかと思います。

できる社員、ダメな社員の意識の差

【仕事がルーズな人】

- ☐ 行動の原点が自分の都合にある人
- ☐ 遅れても何とかかなと考えている人
- ☐ 催促されてから仕事を始める人
- ☐ コスト意識に欠けている人



【仕事がきちんとできる人】

- ☐ 仕事が終わらないと気になる人
- ☐ 人の立場で物事を考えることができる人
- ☐ 仕事が終わった後の時間を有効に使いたいと考えている人
- ☐ 主体性があり、何事も具体的に考えることができる人

～労務管理のポイント～
今ある仕事を確実に仕上げさせる
報告・連絡・相談（いわゆる「ほうれんそう」）を徹底させる。
全てを任せず、積極的に声をかける

「仕事がルーズな人」の項目にいくつも該当する社員の方はおられませんでしょうか？ 大切なことは、「他人の立場に立つ」という仕事の姿勢だと思います。他人のことを常に考えていれば、どんなアクシデントがあったとしても、人との約束を破ったり、仕事の期限を先に延ばしたりしないのではないのでしょうか。

せめて勤務時間内だけでも、「今日やることは今日やる」「今日やらなければ、明日は多忙になる」くらいの気持ちを、社員全員に浸透させていくことが大切だと思います。

☆報酬とやる気の関係

人は、ある行動をとった結果として、何か報酬が得られれば、その行動をとることが多くなると言われています。心理学的に言うと、報酬によって行動が「強化」されたと言うそうです。そんなこと、心理学者に言われなくても分かっているとおっしゃられる方もいるでしょう。しかし、では、なぜ、みなさんが、この報酬の効果を知って、活用しているにもかかわらず、社員全員が、やる気に満ちている環境をつくるのが難しいのでしょうか？

それは、一所懸命努力をしても、私たちの社会では、結果が出ない限り、評価されない仕組みになっていることが多いからです。

一生懸命仕事をする。その結果、成果が上があればよいのですが、そうでないと、大抵は何の報酬も与えられません。本当に難しいのは、努力しても、なかなか成果の上まらない社員が、それでも仕事へのやる気を失わないようにすること（上司からのフォローであったり、その努力のプロセスをも加味した評価基準であったり）があってもよいと思います。みなさんはどう考えますか？



人財の育成 VOL. 24 仕事は面白く！

ある住宅販売会社での営業マンセミナーでのことです。開口一番にこんな質問をしました。

「今の仕事は面白いですか？ 面白いと思う人は手を挙げてください」

「・・・」

20数名いる営業マンのうち、手を挙げたのはひとりだけでした。

手を挙げなかった営業マンのうち、一人（20代前半）に聞いてみました。

「あなたは何のために働いているのですか」

「はっきり言えば、給料をもらうためです。だから仕事が面白いと思うことはありません。自分なりに頑張っているのですが…」

今時の若者らしい答えです。確かに給料がもらえなければ、仕事をする人はいないと思います。しかし、いくら何でもこのような社員が大多数を占める会社であって、業績も伸び悩むのではないかと考えさせられました。



セミナーが終了し、ひとり手を挙げた、C君に聞いてみました。

「毎日たくさんの人に会えるのは楽しいものです。確かに嫌な目にあうこともあります、それも考え次第で、それも勉強だと思えば、面白いものです。それを次の営業に活かせばいいんです。むしろ、そう思わなければやれない仕事かもしれませんね」

仕事を面白くする秘訣が集約されているコメントではないでしょうか。

嫌なことでも、つまらないと思う仕事でも、考え方ひとつで楽しくもなり、つまらなくもなるものです。同じやるなら面白く、楽しく仕事ができる工夫をさせましょう！

ある自動車販売会社のトップセールスマンは、身体が汗ばんできたら、一気に戸別訪問するそうです。そうすると気分が高揚し、セールストークにも迫力が増し、うまく契約ができるケースが多くなるそうです。

「同じやるなら、気持ちよくやるに限る」が彼の持論だそうです。



プラス発想

仕事が面白い

やる気がでる

集中力アップ

ある通販会社に勤めるCさんは、入社したら最初に、1日のスケジュールを55分刻みで決めるそうです。5分は小休憩だそうです。

人間が集中力を持続できるのは、最大でも2時間くらいです。無駄に見えるかもしれませんが、少しずつ休みをとりながら、いざ仕事に向かうときには、全力で取り組むリズムを、自分なりにつくっているようです。